

慰安婦問題とアメリカ軍の非行

「史実を世界に発信する会」 茂木弘道

昨年7月アメリカ下院で435人の議員のうちたった10名ほどの出席で慰安婦対日非難決議が採択された。日本軍が組織的に若い女性を強制連行して慰安婦とし、性奴隷として虐待した、などという全くありもしない架空の前提に立ったものである。何しろ、アメリカの公式文書に「慰安婦」は売春婦あるいは職業的なキャンプフォロワーに他ならない。月平均1500円の総収入を上げ(債務者の)マスターに750円を返還する。」(United States Office of War Information, Psychological Warfare Team Attached to U.S. Army Forces, India-Burma Theater) とはつきり書かれているのである。因みに当時日本軍の軍曹の月給は30円であった。軍曹の25倍ほど月々稼いでいたのである。公式文書を全く無視して強制連行とか、性奴隷などと決議案で堂々と述べ立て、それがほとんど異論なく通過してしまうとは全く以って、呆れた話しである。不当極まりないだけでなく、アメリカ人の知性の程度を疑わせるものであった。さらにひどいことにアメリカ人の大多数は、アメリカ軍は慰安婦などとは無縁の清らかな軍であり、慰安所を開設したこと自体が日本軍の劣悪さの証明である、と素朴に信じていることだ。そのために、強制連行などなかった、性奴隷など無かったという説明をはなから聞こうとしない。困ったものである。

米軍が占領下の日本で米軍専用売春施設を作らせて大々的に活用したことなど余りにもよく知られた事実なのであるが、そんなことも知らないのが大多数のアメリカ人なのだから、始末に終えない。また慰安婦問題を持ち出している当の韓国でも、韓国政府は国連軍(実質は米軍)専用の慰安所を開設していた。別にそんなことは秘密でもなんでもなく、たとえば東亜日報1961年9月14日号にはこの慰安所のことが詳しく報じられている。ベトナムでも米軍では現地の売春婦を個々の兵士が利用したことは周知のことであるが、それだけではなかった。米軍は軍のキャンプ内で売春宿を営業させたのである。しかもこの売春宿の管理は旅団長の直接指揮下で行なわれていたことが、有名なスーザン・ブラウンミラーのベストセラー本『アゲインスト・アワ・ウィル: 男・女・強姦』(ランダムハウス出版グループ)にでてくる。

軍の売春宿は師団長の決定により軍のキャンプ内に設置された。そしてその管理は旅団長の直接の指揮の下で行なわれた。明らかにベトナムにおける軍の売春宿は統合参謀本部長のウェストモーランド、サイゴンのアメリカ大使館、ペンタゴンの了解の下で置かれていたものである。(p.95)

軍管理の慰安所に他ならない。こうした軍売春所においてひどい経験をした売春婦が数多くいたこともまた事実である。三、四十年前にアメリカ軍はこういうことをやっぴながら、六十年以上も前の日本軍のことをどうのこうのとはあきれ果てた話である。しかも事実を全く無視したデマ宣伝を鵜呑みにして、われわれの歴史事実を基にした抗議に耳を傾けることもせず、

決議したのである。

話はそこで終わるわけではない。日本を軍事占領した1945年から1952年までの7年間に
おいて、米軍は数々の犯罪非行を行なった。プレス・コードに基づく厳重な検閲のために、米
兵の殺人、暴行、強姦を書くことが禁じられていた。「大きい男の強姦」といった表現でかろうじ
てこれ等のものが部分的に報じられたのみであった。漠然とかなりの犯罪があったと想像され
ているが、実はかなり詳しい統計も存在しているので、ここに紹介する。調達庁労働組合が昭
和34年に都道府県、市町村、警察および報道機関の協力を得て行なったもので、『防衛施
設庁史第2巻』に収録されているものである。昭和20年から27年までの間に人身被害にあっ
た人で、申告を行なったものに限られている。強姦は含まれていない。総数でいうと、**死亡:37
38件、傷害:2071件、療養:3035件**となっている。申告されないものを含めると傷害、療養
に相当する被害はこの倍近くに達したかもしれない。強姦も、傷害、療養よりも少なかったとは
考えられない。すなわち万という数にのぼった可能性が高い。米軍専用慰安施設があつての、
このありさまである。もしこれがなかったとするとぞっとする話である。慰安所というものが決して
それ自体非人間的なものではなく、必要悪とでも言うべきものであることがよくわかるであらう。
平和が回復した後も4千人近くの殺人を行い万に近い傷害・暴行さらには強姦を日本で行
なったのが米軍である、ということをアメリカ人はよくよく認識すべきである。これは慰安婦決議
のような事実に基づかない架空の話ではなく、明確な裏づけのある事実なのである。

このことを知っても、あの不当な慰安婦決議の取り消しを行なうべきであると考えないとしたら、
アメリカ人の良心というものを疑わざるをえなくなるだろう。そんなアメリカ人ばかりではない、と
私は強く確信しているのだが。

[注] 慰安婦問題の詳細については『よくわかる慰安婦問題』(西岡力著、草思社)
Behind the Comfort Women Controversy: How Lies Became Truth
(http://sdh-fact.com/CL02_1/39_S4.pdf)を参照のこと。

*なお本論文の英語版は:http://www.sdh-fact.com/CL02_1/48_S4.pdf